

(別表) 景観整備方針

事業名: 忠別ダム関連事業(ダム周辺環境整備事業) 地方整備局名: 北海道開発局

①当該事業における景観形成の目標像
周辺の景観と調和したダム湖空間の創出: 新たに出現する水と緑の広大なダム湖空間が大雪山国立公園と一体になり、この地を訪れる人々に静かな感動を与えるようなダム湖景観を創出する。(『忠別ダム周辺整備計画』)

②対象となる施設や空間とこれを取り巻く周辺景観との関係に対する基本的な考え方

②-1: 周辺の景観等への配慮の考え方	・大雪山をはじめとする当該地域の自然環境、景観と本整備により新たに創出される空間との調和を図る。(②-1)
②-2: 住民等の利用を考慮した整備の考え方	・忠別ダム周辺整備計画において『自然』『景観』『交流』の3つの柱に基づき、当該空間は「景観・眺望空間」として位置づけられる。利用に関しては次のことを考慮する。 - 上流の駐車帯の緩衝帯として緑地空間の整備(②-2-1) - 下流のフクロウ池との緩衝空間として林空間及び散策空間の整備(②-2-2) - ダム来訪者や地域住民が自由に憩える空間として、大雪の湧水を利用したダム湖を象った親水池及び手洗い場をメインとした整備(②-2-3)
②-3: その他	・上流側には地元町が計画しているシャトルバス構想との連携を行う施設としてのトイレ整備の実施(②-3)

③ (①と②を達成するための) 施設や空間そのものの景観整備の具体的な方針	評価の項目・尺度	予測・評価手法		
③-1: 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方	■規模<②-2-1、②-2-2に対応> ・上流駐車帯と下流フクロウ池の緩衝空間としての範囲を考慮する。 ----- ■配置<②-2-3に対応> ・利用者の休憩型～動的活動型の利用形態を踏まえ、ダム湖を象った親水池をベースに周辺旭岳や忠別川平野部のイメージを表現した施設配置とし、園内施設及び周辺景観を眺望する視点場を設ける。 ・上流駐車帯との緩衝帯機能を考慮した配置とする。	・背景となる自然景観との調和性 ・隣接施設との景観形成上の役割(人工感の遮断、内景観における回遊性、湖畔景観への誘導性等) ・交流空間としてのシンボル性と賑わいの創出性	・フォトモンタージュ等のCGシミュレーションを用いた予測を行う。	・作成したCGシミュレーションの映像を用い、アドバイザー等のデザインの専門家をまじえ、評価する。
③-2: 細部設計、材料等選定の考え方	■材料<②-1に対応> ・整備箇所における工事材料等については、忠別ダムフィル堤体と同様に自然素材をベースに検討する。	・自然性、地域性を踏まえた形状、素材、テクスチャ、色彩等)	・フォトモンタージュ等のCGシミュレーションを用いた予測を行う。	・周辺地域の公園整備の形状、素材、テクスチャ、色彩等の事例を参考として、アドバイザー等のデザインの専門家をまじえ、評価する。
③-3: コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方	■景観との調和に配慮したコスト縮減<②-1に対応> ・整備にあたり園内の施設はダム区域内からの発生材料を活用し、コストの縮減に努める。	・施工性、経済性、維持管理性	・左記項目による比較検討	・施工性、経済性、維持管理性を考慮した評価を行う。
③-4: その他				

①当該事業における景観形成の目標像	
大雪の豊かな自然景色と調和し、人びとに親しまれる潤いのある水辺空間	

②対象となる施設や空間とこれを取り巻く周辺環境との関係に対する基本的な考え方	
②-1: 周辺の景観等への配慮の考え方	周辺景観と一体となったつながりのある水辺空間とし、時間とともに周囲となじむ整備を行う。(②-1-1) 国道からの景観に配慮し、やむを得ず露出する場合においても、現景観へのインパクトが最小限となるように検討するとともに、長期的には樹木等で遮蔽されるよう計画する(②-1-2)。
②-2: 住民等の利用を考慮した整備の考え方	利用形態、利用範囲を具体化し、それらにふさわしい居心地の良い水辺空間を創出する。(②-2-1)。 水辺域を地域の共有の財産として慈しみ、協働して管理する仕組みづくりを地域とともに考える(②-2-2)。
②-3: その他	事業実施においては可能な限り、自然環境の改変を最小化するとともに、改変範囲する場合においても回復に資する対策(ミティゲーション)を実施する。(②-3-1)

③(①と②を達成するための)施設や空間そのものの景観整備の具体的な方針	評価の項目・尺度	予測・評価手法	
③-1: 施設や空間の規模・形状・配慮等の設定の考え方	【形状】 ・周囲の景観とつながりのある形状とするほか、水の表情をアクセントとするなど周辺景観との調和を重視したデザインを行う。(②-1-1対応) ・国道からの現眺望に対し、インパクトが最小限となるデザインを行う。(②-1-1) ・利用形態に合わせ、利用範囲においての水際での安全性が確保可能なデザインとする。(②-2-1対応)。 ・魚類等の移動に配慮した水路の構造・形状(②-3)	・自然の溪流らしさ ・水際部の空間の連続性、一体性 ・境界のあいまいさ	・検討した内容について、整備空間とその周辺をVR(パースチャルリアリティCG)により仮想構築し、周辺景観との調和・一体感等を検討・予測する。 ・予測図を用いてWS(ワークショップ)や住民アンケート調査で評価する。
	【規模】 ・利用範囲については人々の居心地の良いスケールとなるよう、構造物の配置、土工、樹木等を活用する。(②-2-1対応)	・空間のいごち良さ ・人間工学的空間スケールの適切さ ・土地の起伏や構造物・樹木等の遮蔽による見通しの範囲	・設計図上で利用空間の形状と面積を把握し、CGで再現してイメージを確認する。 ・予測図を用いてWS(ワークショップ)や住民アンケート調査で評価する。
	【配置】 ・適切なゾーニング等を行い、整合の取れた水路・構造物の配置を設定する。(②-2-1対応) ・国道からの眺望に対し、インパクトが最小になるような配置を検討する。(②-2-1対応) ・改変を最小限とする全体計画の検討(②-3)	・親水感覚の有無 ・水音の有無	・騒音調査により現状の水音特性を把握し、その変化を既往資料から予測する。 ・既往の事例写真等で親水空間にふさわしい水の流れを想定し、CGで再現してイメージを確認する。 ・予測図を用いてWS(ワークショップ)や住民アンケート調査で評価する。
③-2: 細部設計、材料等選定の考え方	【構造物の形状(デザイン)】 ・防災施設としての性能を維持したうえで、上記の方針を加味して、直線、曲線などを取り入れる。 ・水の表情について、各地の事例を参照に検討する。	・構造物のデザイン、素材と周辺環境との違和感の有無 ・時間の経過によるエージングの状況	・既往事例やCGを用いて構造物形状のイメージを確認する。 ・CGで完成から5年後、10年後の状態を予測する。 ・予測図を用いてWS(ワークショップ)や住民アンケート調査で評価する。
	【構造物の表面(修景)】 ・防災施設としての性能を維持したうえで、上記の方針を加味して調和素材を活用する。 素材選定にあたり、長期的な経年変化を考慮するものとする。	・構造物の素材と周辺環境との違和感(色合い、明度、彩度)の有無 ・樹木植栽等による遮蔽の状況 ・時間の経過による、エージングの予測	・既往事例やCGを用いて構造物の表情をイメージし、確認する。 ・CGで完成から5年後、10年後の状態を予測する。 ・予測図を用いてWS(ワークショップ)や住民アンケート調査で評価する。
③-3: コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方	【コスト縮減の検討】 ・現場にある材料等を可能なかぎり活用する。 ・植栽は周辺から採取した苗木、幼木植栽を基本とする。 ・ライフサイクルコストに着目した設計を行う。 ・災害後の土砂の撤去管理体制については、地元との協議体制を検討する。	・通常工法からのコストの増減と対策効果の比較 ・活着率や成長率の状況	・設計図面から数量および概算工事費を予測する。 ・予測結果を用いて設計者が事前評価する。
③-4: その他	動植物生息・生育環境のミティゲーション(②-3-1対応) ・魚類等の移動に配慮した水路の構造・形状 ・水辺林の保全・復元 ・貴重種の移植 ・改変を最小限とする全体計画の検討	【目標値の設定とその達成度合い】たとえば ・平水流量時に魚道で水深10cm以上、流速1.0m/sec以下とする。 ・右の評価にも繋がる。 ・保全樹木の本数と連続面積 ・移植植物の活着率	・設計図面から魚道の水深・流速、保全樹木および保全面積を予測する。 ・予測結果を用いて設計者が事前評価する。

①当該事業における景観形成の目標像
美しい山里の風景に溶け込み、里の営みを感じながら、快適に走行できる森の道

②対象となる施設や空間とこれを取り巻く周辺景観との関係に対する基本的な考え方	
②-1: 周辺の景観等への配慮の考え方	<ul style="list-style-type: none"> 既存の風景を保全するため現在の土地利用に大きな影響を与えない位置と構造を採用する(②-1-1) 風景に溶け込んだ道路とするため周囲と違和感が生じないように、構造物や法面などを設ける(②-1-2)
②-2: 住民等の利用を考慮した整備の考え方	<ul style="list-style-type: none"> 地域の魅力を伝えるため周辺の市街地や農地など地域の魅力を伝える眺望を確保する(②-2-1) 森に囲まれ心地よく変化する美しい風景を享受できる道路景観を創出する(②-2-2)
②-3:その他	

③ (①と②を達成するための) 施設や空間そのものの景観整備の具体的な方針	評価の項目・尺度	予測・評価手法		
③-1: 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ■ルート<②-1-1に対応> ・主に山裾を通過することで、現況の土地利用への影響を最小限に抑制する(③-1-1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・改変される面積はどの程度かを評価する。 ・景観の面から重要と思われる地形・物件等に影響があるかを評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予備設計段階において、改変される面積、影響のある地形等を把握し、フォトモンタージュ・CG等の技法を用いて、内部景観・外部景観等について予測する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予測により得られたイメージを、現在の景観と比較して評価する。
	<ul style="list-style-type: none"> ■規模・形状<②-1-2に対応> ・新たに発生する切土や盛土の法面などについては風景との融和を考慮した規模や形状、修景方法について検討する(③-1-2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・切土、盛土法面が、周辺の風景に融和しているかを評価する。 ・法面の植生や保護工が周辺の環境と馴染んでいるかを評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予備設計段階において、フォトモンタージュ・CG等の技法を用いて、内部景観・外部景観等について予測する。(夏季及び冬季) ・周辺の植生を調査し、計画する法面保護工のイメージを作成し、予測する。(夏季及び冬季) 	<ul style="list-style-type: none"> ・予測により得られたイメージを、現在の景観や既往の優良事例と比較して評価する。 ・また、景観全体のバランスや道路のデザインの観点から既往の優良事例や専門家の意見により評価する。
	<ul style="list-style-type: none"> ■ビューポイント<②-2-1に対応> ・地域の景観を活かすために、良好な眺望ポイントの確保について検討する(③-1-3) 	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺の眺望ポイントからみて、地形や景観に馴染んでいるかを評価する。 ・内部景観から、眺望ポイントがどの様に見えるかを評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予備設計段階において、フォトモンタージュ・CG等の技法を用いて、内部景観・外部景観等について予測する。(夏季及び冬季) 	<ul style="list-style-type: none"> ・予測により得られたイメージを、現在の景観や既往の優良事例と比較して評価する。
	<ul style="list-style-type: none"> ■道路付属物の集約化<②-2-1、②-2-2に対応> ・走行時および駐車時の良好な眺望を確保するために道路付属物の集約化について検討する(③-1-4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・景観を阻害すると考えられる道路付属物がどの程度あるのかを評価する。(特に標柱類、防雪柵、立入防止柵について) ・必要となる道路付属物の代替案、集約案の検討を行っているかを評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予備設計段階において、道路付属物の種類、規模、配置等を把握し、フォトモンタージュ・CG等の技法を用いて、内部景観・外部景観等について予測する。(夏季及び冬季) ・代替案、集約案についても同様に予測する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予測により得られたイメージを、現在の景観や既往の優良事例と比較して評価する。 ・代替案、集約案については、安全性についても評価する。
	<ul style="list-style-type: none"> ■沿道緑化<②-1-2、②-2-2に対応> ・切土や盛土の法面の印象を緩和するための効果的な沿道緑化について検討する(③-1-5) 	<ul style="list-style-type: none"> ・樹木による緑化を行う場合に、密度により自然らしさを評価する。 ・草類により緑化を行う場合に、周辺の植生と馴染むかを評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予備設計段階において、フォトモンタージュ・CG等の技法を用いて、内部景観・外部景観等について予測する。(夏季及び冬季) 	<ul style="list-style-type: none"> ・予測により得られたイメージを、現在の景観や既往の優良事例と比較して評価する。
③-2: 細部設計、材料等選定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ■構造物の形状、色彩<②-1-2、②-2-2に対応> ・橋梁部について、風景との融和を考慮した形状や色彩について検討する(③-2-1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・主に外部景観として、橋梁本体が周辺に馴染んでいるかを評価する。 ・主に外部景観として、橋梁の色彩が周辺景観に馴染んでいるかを評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・橋梁予備設計段階において、フォトモンタージュ・CG等の技法を用いて、存在感がありすぎないか、違和感がないかを予測する。(夏季および冬季) 	<ul style="list-style-type: none"> ・予測により得られたイメージを、現在の景観や既往の優良事例と比較して評価する。 ・また、景観全体のバランスや道路のデザインの観点から既往の優良事例や専門家の意見により評価する。
	<ul style="list-style-type: none"> ■道路付属物の形状、色彩、配置<②-1-2、②-2-2に対応> ・道路付属物について、風景との融和を考慮した形状や色彩、配置について検討する(③-2-2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路付属物が、周辺景観に配慮されたシンプルな構造、配置であるかを評価する。 ・道路付属物の色彩が周辺景観に馴染んでいるかを評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予備設計段階において、フォトモンタージュ・CG等の技法を用いて、内部景観・外部景観等について予測する。(夏季及び冬季) ・必要に応じて、模型や実物大サンプルによる予測を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予測により得られたイメージを、現在の景観や既往の優良事例と比較して評価する。
	<ul style="list-style-type: none"> ■植栽の樹種選定<②-1-2、②-2-2に対応> ・法面に施す植栽は、自生種を主体に選定することを検討する(③-2-3) 	<ul style="list-style-type: none"> ・法面植栽が、将来にわたり地域の既存植生と調和するかを評価する。 ・積雪寒冷地であることを踏まえ、生育の可否、維持管理性等が考慮されているかを評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺の植生について事前に調査し、植栽した場合の将来の生育状況を予測する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・樹種選定は、専門家や地域住民の意見を尊重して評価する。
③-3: コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ■景観整備による追加費用の検証 ・景観整備をすることにより、特に橋梁整備に増額分が出る（桁高の抑制、色彩への配慮、維持管理費の増、等）が、新工法、新技術の採用を積極的に行い、コスト縮減に努める。 ・植栽は、できる限り現地での発生物（伐根物、表土、等）を使用することを基本とし、新規購入、廃棄物処理費を抑えることとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コスト縮減を図ろうとする結果、上記で検討した景観整備やデザインに著しい不合理が生じないかを評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の予測結果を用いて、コスト縮減をした場合の予測を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コスト縮減した類似事例やアドバイザー等のデザインの専門家の意見を参考に評価する。
③-4:その他				

参考資料 4

（別表） 景観整備方針

事業名：室蘭法務総合庁舎整備事業 地方整備局名：北海道開発局

①当該事業における景観形成の目標像
緑多く、人にやさしい、地域に親しまれる施設

②対象となる施設や空間とこれを取り巻く周辺景観との関係に対する基本的な考え方	
②-1： 周辺の景観等への配慮の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンベルトや近隣公園など、周辺とのグリーンネットワークを形成し、緑豊かな人にやさしい施設とする。(②-1-1) ・周辺景観との調和を図るため、室蘭市の地域性に配慮した材料を可能な限り使用する。(②-1-2)
②-2： 住民等の利用を考慮した整備の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行者の視線にやさしい景観を形成するように、施設のデザインや緑化の計画を行う。(②-2-1) ・人々が利用しやすいアプローチ空間を創出するため、周辺道路等との関係を考慮し、配置計画を行う。(②-2-2)
②-3：その他	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺住宅へのプライバシー及び景観に配慮した配置計画を行う。(②-3-1) ・車両動線に配慮した配置計画を行う。(②-3-2)

③（①と②を達成するための）施設や空間そのものの景観整備の具体的な方針	評価の項目・尺度	予測・評価手法	
③-1： 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ■形状<②-1-2、②-2-1に対応> <ul style="list-style-type: none"> ・室蘭市の地域性や都市環境との調和を図った形態や外壁の色彩、また材料の素材を選定する。(③-1-1) ・施設が持つイメージの特性を活かしつつ、施設周辺との調和を図る。(③-1-2) ■規模<②-2-1、②-2-2に対応> <ul style="list-style-type: none"> ・施設周辺と一体化するよう、施設のボリューム感を調整する。(③-1-3) ・歩行者への視線にやさしい景観となるよう外構計画を行う。(③-1-4) ■配置<②-1-1、②-2-1、②-3に対応> <ul style="list-style-type: none"> ・歩行者からの視線に配慮した壁面線を設定する。(③-1-5) ・施設周辺の良好な景観を保持するため、敷地内の緑化を図る。(③-1-6) ・将来的な周辺環境の変化に対応しやすい配置計画とする。(③-1-7) ・周辺住宅との視線に配慮した配置計画とする。(③-1-8) ・一般車両とその他車両との動線に配慮した配置計画とする。(③-1-9) 	<ul style="list-style-type: none"> ・使用材料に室蘭市特有の気候の検討がなされているか。 ・周辺の景観に調和したデザインや色彩となっているか。 ・施設周辺に調和したボリュームとなっているか。 ・歩行者に威圧感を与えないように計画されているか。 ・建物の配置は、公園や周辺環境との位置関係が検討されているか。 ・緑化率は室蘭市の条例以上となっているか。 ・敷地内の緑化が十分になされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平面図、立面図、簡易模型による検討を行い予測する。 ・平面図、立面図、簡易模型により予測する。 ・ワークショップ等の場において予測する。 ・平面図、簡易模型により、配置検討を行い予測する。 ・ワークショップ等の場において予測する。
③-2： 細部設計、材料等選定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ■施設のデザイン<③-1-1、③-1-2、③-1-3、③-1-5、③-1-8に対応> <ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた雰囲気デザインとする。 ・施設のボリューム感に配慮する。 ■材料の選定<③-1-1に対応> <ul style="list-style-type: none"> ・室蘭市の「ものづくりのマチ」の歴史性を反映した材料を、外観または外構の一部に使用する。 ■外構計画<③-1-2、③-1-4、③-1-7、③-1-8、③-1-9に対応> <ul style="list-style-type: none"> ・防犯性や駐車スペースを保持しつつ、近隣に開かれた空間を創出する。 ■緑化計画<③-1-4、③-1-6に対応> <ul style="list-style-type: none"> ・緑樹帯や公園との緑の連続性や、植栽等による外部（歩行者等）への良好な空間作りに配慮する。 ・市の花（ツツジ）や市の木（ナナカマド）、また周辺道路の街路樹と調和の取れた樹種とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の見え方や全体のデザインは周辺と調和しているか。 ・使用した材料は周辺に調和しているか。 ・親しみやすい空間となっているか。 ・施設周辺との緑の連続性は保たれているか。 ・選択した樹種は調和が取れているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平面図、立面図、簡易模型等により予測する。 ・素材の実物サンプルや整備事例の参照等により予測する。 ・平面図、簡易模型などにより外構検討を行い予測する。 ・平面図、簡易模型などにより外構検討を行い予測する。
③-3： コスト削減、費用対効果を考慮した整備の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ■コスト削減 <ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り一般的な材料等を活用し、標準的な工法の採用を基本とすることによりコスト削減を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コスト削減を図ろうとする結果、上記で検討した景観整備やデザインに著しい影響が生じない施設整備ができるか。 ・費用対効果の視点から妥当なコストとなっているか。 	（上記一連の検討成果を用いる）
③-4：その他			

参考資料5

別表 景観整備方針

事業名:名取川改修事業(藤塚地区) 地方整備局名:東北地方整備局

①当該事業における景観形成の目標像	
河口・井土浦の豊かな自然と貞山堀・クロマツ林の歴史的な風情よりなる景観やそこから望む朝日等の景観の保全、及び河口部周辺の広大な眺望景観の創出	

②対象となる施設や空間とこれを取り巻く周辺景観との関係に対する基本的な考え方	
②-1: 周辺の景観等への配慮の考え方	・貞山堀沿いの緑豊かな歴史的な環境を維持するため、クロマツ林の保全に努めるとともに、工作物・構造物においては、緑景観と馴染む簡素で控えめなデザインを施す。(②-1-1) ・名取川河口と井土浦干潟(河跡湖)がおりなす景観の保全、及び河口部周辺の広大な眺望景観を創出する。(②-1-2)
②-2: 住民等の利用を考慮した整備の考え方	・貞山堀沿いの散策機能を維持・充実するため、現状のサイクリングロード機能を確保するとともに、入口空間や小公園の整備など、交流機能の充実に資する空間整備を図る。(②-2)
②-3: その他	・井土浦、名取川河口部、湿地周辺の自然環境の改変は最小限に留めるとともに、特に保護が必要な箇所への人の出入りを制限することで、生態系を保全する。(②-3)

③(①と②を達成するための)施設や空間そのものの景観整備の具体的な方針	評価の項目・尺度	予測・評価手法	
③-1: 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方	■形状<②-1-1に対応> ・堤防は土工を基本とするシンプルなデザインとし、また、築堤には保安林内の現況盛土を利用し、原風景との調和を図る。(③-1-1) ・水門・樋門等は、構造物設置地点周辺の景観的特徴をとらえたデザインとする。(③-1-2)	・従前景観との雰囲気類似性	・模型による形態・ボリューム感を予測する。 ・主要視点場からのモニタージュ写真を作成し、完成後の景観を予測する。 ・作成したモニタージュ写真等を参考に、周辺住民によるモニタリング、アドバイザー等の意見より、評価する。
	■規模<②-1-1に対応> ・水門等はできるだけコンパクトかつ簡素な形態となるようデザインとする。(③-1-3)	・周辺景観との馴染み具合 ・歩行者や船の視点からの親しみやすさ	・模型による形態・ボリューム感を予測する。 ・主要視点場からのモニタージュ写真を作成し、周辺景観との馴染み具合を予測する。 ・作成したモニタージュ写真等を参考に、周辺住民によるモニタリング、アドバイザー等の意見より、評価する。
	■配置<②-1-2、②-3に対応> ・堤防は井土浦、河口、湿地部への築堤を避け、自然環境への影響を最小限に留めるとともに、河口部周辺眺望景観における新たな構築物の表出を避ける。(③-1-4) ・水門は、周辺景観に対し必然性の感じられる収まりのよい位置に配置する。	・従前景観への影響の程度 ・周辺景観との馴染み具合	・主要視点場からのモニタージュ写真を作成し、完成後の景観を予測する。 ・作成したモニタージュ写真等を参考に、周辺住民によるモニタリング、アドバイザー等の意見より、評価する。
③-2: 細部設計、材料等選定の考え方	■クロマツ林の保全<②-1-1に対応> ・貞山堀沿いのクロマツ林の伐採を避ける局所的な築堤形態を工夫するとともに、止むを得ず伐採する場合は、補植を施す。	・必要な保全措置への対応の適切性 ・従前景観との雰囲気類似性	・平面図等を基に、既往の知見等により、現存植生の分布範囲への影響の度合いを検討する。 ・主要視点場からのモニタージュ写真を作成し、完成後の景観を予測する。 ・景観アドバイザー等の専門家を交え、植生保全措置の適切性に等について評価する。 ・作成したモニタージュ写真等を参考に、周辺住民によるモニタリング、アドバイザー等の意見より、評価する。
	■堤防デザイン<②-1-1、③-1-1、③-1-2に対応> ・堤防の法尻や法肩において周辺の地形に馴染むようなデザインとする。 ・堤防については、周辺景観の特色を的確にとらえ、消去・融和・強調等を使い分けたデザインとする。 ・全体の景観に配慮しつつ、区間の接続箇所において違和感のないデザインを施す。	・周辺景観との馴染み具合	・平面図・断面図等を基に、既往の知見及び事例分析等により、景観面への貢献の程度を検討する。 ・主要視点場からのモニタージュ写真を作成し、完成後の景観を予測する。 ・作成したモニタージュ写真等を参考に、周辺住民によるモニタリング、景観アドバイザー等専門家の意見より、評価する。
	■サイクリングロードデザイン<②-1-1、②-2に対応> ・築堤によりサイクリングロード機能に支障がないよう、堤防上への付け替えなどを行い、スムーズかつ快適なサイクリング・散策機能を維持する。 ・防護柵整備に際しては、自然景観と馴染むようシンプルな形態、落ち着いた色調とする。	・周辺景観との馴染み具合 ・歩行者や船の視点からの親しみやすさ	・平面図・断面図等を基に、既往の知見及び事例分析等により、景観面への貢献の程度を検討する。 ・景観アドバイザー等の専門家の意見により、評価する。
	■新たな交流空間創出<②-2に対応> ・サイクリングロードと貞山堀出合い部、名取川河川敷きなどにおいて、貞山堀への入口空間、新たな眺望場所などの機能を有した小公園等を整備し、ふれあい・交流機能の充実に資する。	・貞山堀沿い交流空間としてふさわしいデザインを備えているか(自然景観・歴史性を感じさせる景観等)	・平面図・断面図等を基に、既往の知見及び事例分析等により、交流空間としての設計の適切性を検討する。 ・主要視点場からのモニタージュ写真を作成し、完成後の景観を予測する。 ・景観アドバイザー等の専門家を交え、空間設計の適切性等について評価する。 ・作成したモニタージュ写真等を参考に、周辺住民によるモニタリング、アドバイザー等の意見より、評価する。
③-3: コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方			
③-4: その他			

参考資料 6

別表 景観整備方針

事業名:津軽ダム関連事業(付替道路) 地方整備局名:東北地方整備局

①当該事業における景観形成の目標像	
<p>自然に対する畏敬の念と、地域の歴史と生活を大切にす姿勢が感じられるように、里の風景や自然に馴染む道を丁寧に設える。地域の魅力が良く見える窓となり、将来、元々そこにあったと思えるような道とする。</p>	<p>景観整備基本理念: 白神へいざない 津軽の風景に溶け込み 地域の誇りをつむぐ道</p>

②対象となる施設や空間とこれを取り巻く周辺景観との関係に対する基本的な考え方	
②-1: 周辺の景観等への配慮の考え方	<p>②-1-1 里の風景を分断することなく、目立ち過ぎることもなく、あくまでも控えめに、だが格を感じさせる身だしなみは整える。</p> <p>②-1-2 地形に出来るだけ素直に、傷跡は残さず、自然環境に同化する環境を整える。</p>
②-2: 住民等の利用を考慮した整備の考え方	<p>②-2-1 地域の魅力や記憶を伝えるための工夫を行う。</p> <p>②-2-2 落ち着いた風景を楽しめる場を用意する。</p>
②-3:その他	②-3 目標像の実現にあたっては、視点との関係も精査しながら、メリハリのある投資を考え、コストの縮減に務める。

③ (①と②を達成するための) 施設や空間そのものの景観整備の具体的な方針		評価の項目・尺度	予測・評価手法		
デザイン方針	着目点と整備目標				
③-1: 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方	<p>■橋梁(付替道路6橋) 岩木山や周辺の山並み、彩り豊かな樹林、岩木川などが織り成す自然風景を主役とし、それらを引き立てる脇役としてデザインを展開する</p>	<ul style="list-style-type: none"> 桁と橋台の接続:スムーズな形の連続性の確保 橋梁とトンネルとの接続:環境負荷の低減 桁の高さ:軽快なイメージの創出 露出した付属物:煩雑な印象の回避 	<ul style="list-style-type: none"> 外部の視点から見た時に違和感が無く、周囲の風景に溶け込んでいるか 全体の形のバランスが良く、付属物も目立たないか 地形の変更が最小限に抑えられているか 	<ul style="list-style-type: none"> フォトモンタージュ及び模型により、主要な視点からの見え方を予測する 	<ul style="list-style-type: none"> 既往の優良事例と比較評価するとともに、景観アドバイザー等の専門家により評価する
	<p>■トンネル(付替道路3か所) 地形および植生の改変を抑制するとともに、地形と一体化し、進入抵抗感の低い抗門デザインとする。また、路線の統一感を創出する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 抗門工の形状:地形に対するスムーズな収まり 坑口周辺の切土:地形改変の縮小、違和感のない地形造成 	<ul style="list-style-type: none"> 一連の抗門は統一感のあるイメージとなっているか 地形の変更が最小限に抑えられているか 切土のり面は、周囲の地形になじむ形となっているか 自然植生の復元が可能なり面形状となっているか 	<ul style="list-style-type: none"> CGIにより走行シミュレーションを行い、走行景観を予測する フォトモンタージュ及び模型により、地形の納まりと全体的な見え方を予測する 	<ul style="list-style-type: none"> 既往の優良事例と比較評価するとともに、景観アドバイザー等の専門家により評価する
	<p>■擁壁 周辺景観と調和し、違和感を与えないデザインとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 擁壁の形状:圧迫感、巨大感の軽減 周辺景観との融和:地形とのスムーズな収まり 	<ul style="list-style-type: none"> 周辺の地形に無理なくなじんだ納まりとなっているか 自然景観の中で不自然に目立っていないか 	<ul style="list-style-type: none"> フォトモンタージュにより、主要な視点からの見え方を予測する 	<ul style="list-style-type: none"> 既往の優良事例と比較評価するとともに、景観アドバイザー等の専門家により評価する
	<p>■土工 環境復元とセットで考え、自然な地形の創出を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 周辺地形との融和:自然な流れのある地形造成 植生復元に対する配慮:植生基盤の確保 切土のり面の縮小化:環境負荷の低減 構造物のおさまり:不自然な地形の回避 	<ul style="list-style-type: none"> 切土のり面が道路走行時に不自然な印象を与えないか 集落や他の道路の視点から見た時に、周囲の自然景観との対比で異質な印象を与えていないか 自然植生の復元が可能な地形となっているか 	<ul style="list-style-type: none"> CGIにより走行シミュレーションを行い、走行景観を予測する フォトモンタージュにより、外部からの見え方を予測する 模型により、地形の納まりと予測する 	<ul style="list-style-type: none"> 既往の優良事例と比較評価するとともに、景観アドバイザー等の専門家により評価する
	<p>■電柱電線 地中化もしくは眺望を阻害しないロケーションと沿道景観に融和する架空線方式の適用を検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 現実的な解決策:地中化または存在感の低い架空線方式 	<ul style="list-style-type: none"> 道路を走行中に、電線類が目立って見えることはないか 	<ul style="list-style-type: none"> CGIにより走行シミュレーションを行い、走行景観を予測する 	<ul style="list-style-type: none"> 既往の優良事例と比較評価する
③-2: 細部設計、材料等選定の考え方	<p>■植栽(のり面、緩衝緑地) 地域の魅力を成す眺望の確保に配慮しつつ、自然植生の復元と地域景観の向上を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 導入植生:自然環境の保全、周辺景観との整合 着実な育成:自然の摂理に学ぶ 眺望性:妙味のある風景の創出 	<ul style="list-style-type: none"> 将来、周囲の植生に溶け込むことができるか 積雪寒冷地の環境で、確実に生育できるか 眺望を適切に確保した樹木の配置となっているか 	<ul style="list-style-type: none"> 環境調査結果をもとに現地の植生を確認し、将来像を予測する CGIにより走行シミュレーションを行い、走行景観を予測する 	<ul style="list-style-type: none"> 植生の専門家に協力していただくとともに、景観の構成に関しては景観アドバイザー等の専門家により評価する
	<p>■付属施設(防護柵類、照明柱、標識など) 耐久性に優れ、シンプルで質感の高い既製品を用いることで、周辺景観との調和を図るとともに、コスト縮減に寄与する(ただし、供用済み道路の製品をある程度尊重する)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 防護柵:眺望の確保、景観の向上 落下物防止柵:眺望の確保、景観の向上 照明柱:日中の存在感の軽減 道路標識(青看板):背面の煩雑感の軽減 	<ul style="list-style-type: none"> 道路を走行中に良好な眺望を享受できるように適切な配慮が行われているか 周囲の景観に対して目立っていないか 	<ul style="list-style-type: none"> CGIにより走行シミュレーションを行い、走行景観を予測する フォトモンタージュにより、周辺景観との調和を予測する 	<ul style="list-style-type: none"> 既往の優良事例と比較評価するとともに、景観アドバイザー等の専門家により評価する
	<p>■色彩(橋梁の桁塗装色、防護柵や照明柱などの付属施設の塗装色=素材、仕上げを含む) 植物による四季の彩りを際立たせるような人工物の色彩を設定する</p>	<ul style="list-style-type: none"> 植物の彩りとの整合性:地に徹する色彩構成 	<ul style="list-style-type: none"> 四季折々に変化する周囲の色彩に対して溶け込む色彩となっているか 	<ul style="list-style-type: none"> 四季のフォトモンタージュにより、周辺景観との調和を予測する 	<ul style="list-style-type: none"> 既往の優良事例と比較評価するとともに、景観アドバイザー等の専門家により評価する
③-3: コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方	<ul style="list-style-type: none"> 地形の改変を可能な限り抑制することを検討し、土工等の費用の縮減を図る 植栽は、自然植生の導入を促進することを主体に考え、植栽樹木の購入は最小限に抑える。 落葉広葉樹の伐採樹木は、通常、廃棄物と扱われる伐り株を植栽に利用し、遺伝子レベルの植生復元を目指すとともにコスト縮減を図ることを検討する(里山の萌芽更新手法の活用) 	<ul style="list-style-type: none"> トータルコストは縮減されたか 景観的に違和感のあるものにならないか 	<ul style="list-style-type: none"> 上記一連の検討成果等を用いる 	<ul style="list-style-type: none"> コストと景観の相違を比較して事業者が評価する 	
③-4:その他					

別表 景観整備方針

事業名:五所川原西バイパス 地方整備局名:東北地方整備局

①当該事業における景観形成の目標像	
地域の風景を尊重し、広々とした津軽平野に馴染み親しまれるみちづくり	
②対象となる施設や空間とこれを取り巻く周辺景観との関係に対する基本的な考え方	
②-1: 周辺の景観等への配慮の考え方	<p>【外部景観】</p> <p>当該地域には、津軽平野、岩木山、岩木川といった景観の核となる自然地物が存在し、地域の人々に親しまれている。一方、幹線道路という当該道路の特性を考えると、地域の人々にとっては、道路を利用する機会だけでなく、日々の暮らしの中で道路を眺める機会の方も多いためと思われる。五所川原西バイパスの整備にあたっては、これらの自然地物がある風景と当該道路とが、できるだけ調和するように配慮し、地域の人々に親しまれる道路整備を行なう。</p> <p>◆津軽平野：津軽平野の広がり、広大な眺望を阻害しないように配慮する。また、水田を主体とする津軽平野が四季に応じて緑、黄色、白と色を変化させることも考慮する。</p> <p>◆岩木山：当該地域の多くの場所から眺めることができ、地域の人々の心のよりどころとなっている。そのため、岩木山の眺望を阻害しないように配慮する。</p> <p>◆岩木川：岩木川の河川敷がグラウンド等として高度に利用されており、河川敷から見る道路（橋梁部）の眺望に配慮する必要がある。</p> <p>【内部景観】</p> <p>五所川原西バイパスの走行時、津軽平野の広がりや岩木山、岩木川の眺望を楽しみ、五所川原らしさを感じることのできる道路空間とする。</p>
②-2: 住民等の利用を考慮した整備の考え方	<p>【五所川原らしさの演出】</p> <p>五所川原西バイパス上から津軽平野の広がりや岩木山、岩木川の眺望を楽しむことが出来るよう配慮し、五所川原らしさを演出できる整備とする。</p> <p>【沿道空間づくり、地域の方々の生活への配慮】</p> <p>地域の人々が慣れ親しんでいる津軽平野、岩木山の見える風景を阻害しないように配慮する。また、地域の風景に溶け込むよう配慮する。これらにより、地域の人々に親しまれる道路づくりとする。また、当該道路は農地（水田）部分を多く通るが、地域の人々の農業活動にも配慮する。</p>
②-3：その他	時間の経過と共に地域に溶け込むよう、自然に景観の形成を図っていく。

③（①と②を達成するための）施設や空間そのものの景観整備の具体的な方針		評価の項目・尺度	予測・評価手法	
③-1: 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方	<p>■土工部（盛土）</p> <p>一盛土高</p> <ul style="list-style-type: none"> 道路外部から見たときの津軽平野の広がりや岩木山への眺望を阻害しないため、盛土の高さを可能な限り抑えるよう検討する。 <p>一法面植栽</p> <ul style="list-style-type: none"> 道路外部から見たときに道路が目立たないような植栽の選定を検討する。 道路内部から平野の広がりを楽しめるような植栽の選定を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 盛土面が周囲の景観に無理なく馴染んでいるか。 盛土の高さが周囲の景観（津軽平野の広がり、岩木山への眺望）を阻害していないか。 道路内部から地域の景観への眺望を阻害しないように配慮されているか。 	<p>現地でVRを見ることにより主要な視点から見え方を予測した。</p>	<p>既往の優良事例と比較評価するとともに、景観アドバイザー等の専門家により評価する。</p>
	<p>■土工部（ボックスカルバート）</p> <p>一ボックスカルバートの違和感の軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> 道路外部から見たときにボックスカルバートのコンクリートが目立って津軽平野の景観に違和感を与える恐れがある場合には、ボックスカルバート付近への植栽、ジオテキスタイル等の適用を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ボックスカルバートが周囲の景観に違和感を与えていないか。 	<p>VRにより主要な視点から見え方を予測する。</p>	<p>既往の優良事例と比較評価するとともに、景観アドバイザー等の専門家により評価する。</p>
	<p>■橋梁部</p> <p>一橋梁形式</p> <ul style="list-style-type: none"> 広大な津軽平野にふさわしい形状として、上路橋形式を検討する。 岩木川の河川敷に橋梁を挟んで2つのグラウンドがあるため、近傍からの視点を考慮し、圧迫感の少ない形状となるよう検討する。 <p>一高欄形式</p> <ul style="list-style-type: none"> 道路内部から岩木川の眺望を楽しめるよう、透過性にも配慮した高欄を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 周囲の景観に馴染み、映えているか。 近傍から見たときに圧迫感を与えていないか。 道路内部から地域の景観への眺望を阻害しないように配慮されているか。 	<p>フォトモニタージュやVRにより主要な視点からの見え方を予測する。</p>	<p>既往の優良事例と比較評価するとともに、景観アドバイザー等の専門家により評価する。</p>
	<p>■道路付属物（車両防護柵）</p> <p>一車両防護柵の形式</p> <ul style="list-style-type: none"> 道路外部から見たときに津軽平野の景観に違和感を与えないような形状となるよう検討する。 道路内部から津軽平野の眺望を楽しめるよう、透過性にも配慮した車両防護柵を検討する。 <p>■道路付属物（防雪柵）</p> <p>一防雪柵の形式</p> <ul style="list-style-type: none"> 防雪柵を使用しない期間の道路外部からの景観、道路内部からの眺望を阻害しないように配慮したものを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 車両防護柵が目立ち、周囲の景観に違和感を与えていないか。 道路内部から地域の景観への眺望を阻害しないように配慮されているか。 <p>・防雪柵が目立ち、周囲の景観に違和感を与えていないか。</p> <p>・道路内部から地域の景観への眺望を阻害しないように配慮されているか。</p>	<p>フォトモニタージュやVRにより、周辺景観との調和等について予測する。</p> <p>フォトモニタージュやVRにより、周辺景観との調和等について予測する。</p>	<p>既往の優良事例と比較評価するとともに、景観アドバイザー等の専門家により評価する。</p> <p>既往の優良事例と比較評価するとともに、景観アドバイザー等の専門家により評価する。</p>
③（①と②を達成するための）施設や空間そのものの景観整備の具体的な方針		評価の項目・尺度	予測・評価手法	
③-2: 細部設計、材料等選定の考え方	<p>■土工部（盛土）</p> <p>一法面植栽</p> <ul style="list-style-type: none"> 道路の立地する水田の四季による変化も考慮し、周囲に馴染む樹種の選定を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 四季を通じて盛土面が周囲の景観に無理なく馴染んでいるか。 	<p>フォトモニタージュやVRにより、周辺景観との調和等について予測する。</p>	<p>既往の優良事例と比較評価するとともに、景観アドバイザー等の専門家により評価する。</p>
	<p>■土工部（ボックスカルバート）</p> <p>一コンクリートの表面処理</p> <ul style="list-style-type: none"> 周囲の景観からボックスカルバートが目立って見える恐れがある場合には、適切な処理を検討する。 <p>一ボックスカルバート付近への植栽</p> <ul style="list-style-type: none"> ボックスカルバート付近に施す植栽は、津軽平野に点在する樹木を考慮した樹種、配置を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ボックスカルバートが周囲の景観に違和感を与えていないか。 ボックスカルバート付近の植栽が周囲の景観に無理なく馴染んでいるか。 	<p>フォトモニタージュやVRにより、周辺景観との調和等について予測する。</p>	<p>既往の優良事例と比較評価するとともに、景観アドバイザー等の専門家により評価する。</p>
	<p>■橋梁部</p> <p>一橋梁の色彩</p> <ul style="list-style-type: none"> 周囲の河川敷が高度に利用されていることを考慮し、岩木川の景観に馴染み、かつ地域の人々に親しまれる色彩の選定を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 周囲の景観に馴染み、地域の人々に親しまれる色彩になっているか。 	<p>フォトモニタージュやVRにより、周辺景観との調和等について予測する。</p>	<p>既往の優良事例と比較評価するとともに、景観アドバイザー等の専門家により評価する。</p>
	<p>■道路付属物（車両防護柵）</p> <p>一車両防護柵の色彩</p> <ul style="list-style-type: none"> 季節ごとに大きく変化する周囲の色に調和する低彩度色を基調として検討する。 <p>■道路付属物（防雪柵）</p> <p>一防雪柵の色彩</p> <ul style="list-style-type: none"> 積雪時に使用することを考慮すると高明度、低彩度色が望ましい。コスト、維持管理面なども考慮し、素材の色を可能な限り利用することを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 四季や天候の変化も含め、周辺の自然景観に対し、煩雑感や浮き立ち感がないか。 整備対象の色彩と周辺色彩との明度比や彩度比等を尺度として、違和感の有無を評価する。 	<p>フォトモニタージュやVRにより、周辺景観との調和等について予測する。</p> <p>フォトモニタージュやVRにより、周辺景観との調和等について予測する。</p>	<p>既往の優良事例と比較評価するとともに、景観アドバイザー等の専門家により評価する。</p> <p>既往の優良事例と比較評価するとともに、景観アドバイザー等の専門家により評価する。</p>
③-3: コスト削減、費用対効果を考慮した整備の考え方	<p>■景観整備による追加費用の検証</p> <ul style="list-style-type: none"> 構造物のデザインによる事業費の増減について検証する。 <p>■コスト削減の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設や空間の規模・形状・配置等の設定にあたっては、コスト削減の観点から、必要以上に華美とならないよう十分留意する。 道路付属物は、維持管理面も考慮したコスト削減の観点から、既製品の活用を基本として検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 上記で検討した景観配慮やデザインの結果、著しいコスト増を招いていないか。 	<p>関連する検討成果を用いる。</p>	<p>コストと景観の相違を比較して事業者が評価する。</p>

別表 景観整備方針の設定

事業名: 利根川下流改修事業(本宿耕地地区、佐原地区) 地方整備局名: 関東地方整備局

①当該事業における景観形成の目標像	
<ul style="list-style-type: none"> ○利根川を背景とした水郷佐原の大パノラマを感じる水辺景観づくり ○利根川との密接な関わりを継承する水辺景観づくり 	

②対象となる施設や空間とこれを取り巻く周辺景観との関係に対する基本的な考え方	
②-1: 周辺の景観等への配慮の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・利根川の大パノラマ景観、筑波山の眺望を実感できる水辺空間づくりを図る。(②-1-1) ・自然豊かな水辺やたぬき島などの多様な景観資源を保全し、その自然環境と調和した水辺空間づくりを図る。(②-1-2) ・人工的で巨大な盛土造成による圧迫感を軽減し、水郷田園園景観と調和した空間づくりを図る。(②-1-3)
②-2: 住民等の利用を考慮した整備の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・利根川と観光拠点との結節点にふさわしい連続性のある水辺空間の形成を図る。(②-2)
②-3: その他	<ul style="list-style-type: none"> ・佐原ドックの利根川改修の歴史性を大切に、その保全と新しい水辺空間間としての活用を図る(②-3)

③ (①と②を達成するための) 施設や空間そのものの景観整備の具体的な方針		評価の項目・尺度	予測・評価手法	
③-1: 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ■形状(②-1-2、②-1-3に対応) <ul style="list-style-type: none"> ・既存高水敷を活用した湿地再生エリアの形成、及びたぬき島の保全を図る ・高規格堤防法面の緩傾斜化により、背後地からの盛土による圧迫感を軽減を図る ■配置(②-1-1、②-2、②-3に対応) <ul style="list-style-type: none"> ・建築から楽しむことのできる眺望景観を意識した居室の配置、利根川の大パノラマを感じることのできるエントランス広場の配置計画 ・国道356号からのアクセス、地域交流館～舟運船着場～湿地再生エリアの連続した動線と、統一感のあるシークエンス(移動景観)の形成を図る ・堤防法面は、緩傾斜(1:5.0)の空間的連続性を図るとともに、佐原ドックとの空間的一体感の形成を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・広大な河川景観と調和しているか ・水郷田園園景観と調和しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・CGにより予測する 	<ul style="list-style-type: none"> ・CG等による資料をもとに、アドバイザーを交えた検討委員会等により評価する
	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな視点場として活用されているか ・統一感、連続性の確保がなされているか ・佐原ドックの特異な空間を活かしているか ・建築による圧迫感はないか、河川景観と調和しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・CGによる景観予測 ・模型により予測する 	<ul style="list-style-type: none"> ・CG(アニメーション)や模型を用いた視覚資料をもとに、アドバイザーを交えた検討委員会等により評価する 	
③-2: 細部設計、材料等選定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ■水辺空間の連続性(②-2に対応) <ul style="list-style-type: none"> ・水辺を楽しむことのできる歩行空間として、舟運船着場～佐原ドックまで統一したデザイン(ボードウォーク)とする 	<ul style="list-style-type: none"> ・河川マリーナ(佐原湊)における水辺散策路としての演出効果、連続性はあるか 	<ul style="list-style-type: none"> ・CGにより予測する 	<ul style="list-style-type: none"> ・CG(アニメーション)をもとに、アドバイザーを交えた検討委員会等により評価する
	<ul style="list-style-type: none"> ■広大な水辺空間との調和(②-1に対応) <ul style="list-style-type: none"> ・広大な水辺景観の阻害要因とならない係留棧橋 	<ul style="list-style-type: none"> ・広大な河川景観と調和しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・CGにより予測する 	<ul style="list-style-type: none"> ・既往事例やCG等による資料をもとに、アドバイザーを交えた検討委員会等により評価する
	<ul style="list-style-type: none"> ■建築デザイン(③-1に対応) <ul style="list-style-type: none"> ・中心棟(メインビルディング)のデザイン、安定感のある屋根のデザイン 	<ul style="list-style-type: none"> ・機能性の分担と施設全体構成のわかりやすさ、自然景観と調和しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・模型により予測する 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画図(平面・立面図)や模型をもとにアドバイザーを交えた検討委員会等により評価する
③-3: コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ■施工時期の調整によるコスト縮減 <ul style="list-style-type: none"> ・湿地再生エリアの水路等整備による発生土を高規格堤防盛土に利用できるように施工時期を調整することにより、省資源化・省コスト化を図る 			
③-4: その他				

別表 景観整備方針

事業名：鬼怒川水系直轄砂防事業（大谷川床固群） 地方整備局名：関東地方整備局

①当該事業における景観形成の目標像	
歴史的・文化的遺産（大日堂等）に触れ合いつつ、水辺で楽しい一時（ひととき）を過ごせる自然にとけ込んだ親水空間	

②対象となる施設や空間とこれを取り巻く周辺景観との関係に対する基本的な考え方	
②-1: 周辺の景観等への配慮の考え方	・自然景観と大日堂等の文化景観を一体的な空間とする。 ・多数の転石が存在する河川と文化遺産の景観配慮から現地の自然石を使用し文化的な工夫をする。
②-2: 住民等の利用を考慮した整備の考え方	・大日堂復元や親水空間の創出により、散策ネットワーク(ウォーキングトレイル)利用の観光客や地域住民が文化遺産に触れ合いつつ河川での憩いの場の利用を促進する。
②-3: その他	・大日堂法楽及び日光ツアーウォークの開催

③（①と②を達成するための）施設や空間そのものの景観整備の具体的な方針		評価の項目・尺度	予測・評価手法	
③-1: 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方	■形状<②-1-1> ・文化遺産と河川の一体的な空間を創出するために、両空間の境界に位置する護岸工に緩勾配部を設けると共に、景観に配慮した形状とする。	・文化遺産と河川空間の境界線形とその一体性	・フォトモンタージュを作成し、多方面からの視覚により予測する。	・景観アドバイザーの専門家をまじえ評価する。
	■規模<②-1-1> ・文化遺産と河川との境界に位置する護岸工の高さは、度重なる文化遺産の流出を防ぐため高水護岸とする。	・安全な空間の創出	・洪水シミュレーションにより予測する。	・水理学の専門家により評価する。
	■配置<②-2> ・大日堂跡地と親水空間の境界に護岸工を設け、大日堂跡地は文化遺産と触れ合える場とし、親水空間は湧水を利用した自然石からなる池や水路とし水遊びや憩いの場とする。	・大日堂跡地と親水空間との一体性 ・水への親近感の感じ方 ・安らぎの空間	・フォトモンタージュを作成し、多方面からの視覚により予測する。	・景観アドバイザーの専門家をまじえ評価する。
③-2: 細部設計、材料等選定の考え方	■高水護岸<③-1-1、③-1-2> ・100年に一度の洪水から文化遺産を保全する高さとし、大日堂跡地と親水空間が一体的となる線形景観や階段工からなる自然なつながりを持つ護岸工とする。	・両空間との一体感	・フォトモンタージュを作成し、多方面からの視覚により予測する。	・景観アドバイザーの専門家をまじえ評価する。
	■池・水路<③-1-3> ・湧水利用の池は、小規模なビオトープを損なうことがないように現在の池を幾分拡大し流路を下流へ導く。	・自然空間の創出 ・池への近づき易さ	・フォトモンタージュを作成し、多方面からの視覚により予測する。	・景観アドバイザーの専門家をまじえ評価する。
	■低水護岸等の材料<③-1-3> ・湧水利用の池及び河川境界の護岸は、河川の河床状況が巨れきを含みれきにより覆われていることから、河川と連続性、一体感を創出するため現地の自然石を用いる。	・河川との連続性、一体感 ・河川への近づき易さ	・フォトモンタージュを作成し、多方面からの視覚により予測する。また、実際の現場にて実体験により予測する。	・景観アドバイザーの専門家をまじえ評価する。また、関係者に実体験して貰い意見を聞く。
③-3: コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方	・可能な限り現場にある材料等を活用する。	・コスト縮減を図ろうとする結果、上記で検討した景観整備やデザインに著しい不合理を生じないか	・上記一連の検討成果を用いる。	・景観アドバイザーの意見を参考に評価する。
③-4: その他				

注)本景観整備方針は、これまで検討してきたものをとりまとめたものであり、今後景観アドバイザーなど、学識経験者の助言、時間の経過に伴う周辺情勢の変化を踏まえ、必要に応じて見直すことがある。

別表 景観整備方針

事業名：東京港臨海道路Ⅱ期事業 地方整備局名：関東地方整備局

①当該事業における景観形成の目標像	
東京港の世界に向けたゲートとしての存在感を示し、これから発展してゆく沖合い側埋立地を含む地域のシンボルとなり、人々にとって親しみの感じられる橋梁を創出する。	

②対象となる施設や空間とこれを取り巻く周辺景観との関係に対する基本的な考え方	
②-1: 周辺の景観等への配慮の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・第3航路を横断するため、東京港のゲートを印象付ける独自の橋梁形態とし、シンボル性を演出する。(②-1-1) ・若洲地区と中央防波堤外側地区の2つの陸地結ぶ、連続的環境を一体にとらえ、つながりのある空間とする。(②-1-2) ・近接する若洲海浜公園キャンプ場に対し、極力影響を小さくする。(②-1-3)
②-2: 住民等の利用を考慮した整備の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・人々が利用しやすい橋梁空間を創出するため、バリアフリーに配慮した昇降施設の整備、港を見渡せる新しい視点を生かす展望・眺望機能を持った歩道空間の整備を行い安心感のある、親しみのもてる空間を目指す。(②-2-1) ・主橋梁近くまで、海釣り公園があるため、見上げの効果性、上部構造物の煩雑さの低減をはかるとともに、下部構造の視覚的ボリュームの低減に努める。(②-2-2)
②-3: その他	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の新しいシンボル・景観資源として、夜間における照明景観に配慮した整備を行う。

③ (①と②を達成するための) 施設や空間そのものの景観整備の具体的な方針		評価の項目・尺度	予測・評価手法
③-1: 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方	■橋梁形態<②-1-1, -2に対応> ・航路を横断する主橋梁部は、航路制限、進入表面規制に対応したトラスボックス複合橋とし、開放感のある特徴あるトラス形態を採用し、アプローチ橋梁部は、主橋梁ボックス桁と同等のボックス桁を採用し、橋梁区間全体の連続性を確保したデザインとする。(③-1-1)	・構造的(構造表現の有効性)ゲート性、シンボル性が適切に表現されているか ・周辺環境との適合性が表現されているか。 ・一連の橋梁としての連続性、一体性が形成されているか。	・周辺空間との関係性や主要視点場からの見え掛りを全体模型や、部分模型、VR(ヴァーチャルリアリティCG)による検討を行い、予測する。 ・現地調査を踏まえ、景観審議委員などのデザインの専門家をまじえ、評価する。
	■橋脚形態<②-1-2, ②-2-2に対応> ・主橋梁主橋脚を中心として、それぞれ、構造要件が異なる構成であるが、連続した一体の構造物として、形態の関係性、デザイン密度レベルの同等性を確保し、形態の関連性、テクスチャー処理に配慮し、一体的景観を創出するものとする。(③-1-2)	・各部の形態特性に応じた形態が相互に連続性、関係性が感じられるか。 ・橋脚群としての統一性が感じられるか。	・模型、VR(ヴァーチャルリアリティCG)を作成し、多様な位置からの見え掛りを検討し、予測する。 ・景観審議委員などのデザインの専門家をまじえ、評価する
	■昇降施設<②-1-1, ②-1-2, ②-2-1に対応> ・昇降施設は、歩行距離を少なくするため、橋梁中央部に出来る限り近づけ、陸上部第一橋脚に近い位置に配置し、多方向への眺望性を活かす配置・構造とする。(③-1-3)	・利用状況に即した施設規模の選定がなされているか。 ・昇降施設の見え方が、歩行者アクティビティの端末として魅力的かつシンボリックに演出されているか。 ・眺望点としての有効性が活用されているか	・模型、VR(ヴァーチャルリアリティCG)を作成し、多様な位置からの見え掛り及び視界状況を検討し、予測する。 ・景観審議委員などのデザインの専門家をまじえ、評価する。
③-2: 細部設計、材料等選定の考え方	■構造細部デザイン<③-1-1, ③-1-2に対応> ・構造細部は、構造的検証を基に、構成要素相互のつながりに違和感のないよう、形態的調和を目指し、メリハリのある形態とする。 ・細部テクスチャーは、光線状況、影の印象の度合いに配慮し、形態特性を強調できるものとする。	・力の流れ・集約、視覚的イメージ、メリハリ感が各部で適切に処理されているか ・テクスチャー導入の効果の程度、視覚イメージ、バランスが橋脚形状の特性を強調できているか	・事例調査、景観審議委員などのデザインの専門家をまじえ、評価する。また、施工段階において、実物のサンプルで見え方を確認しながら調整を行う。
	■橋面施設<②-1-2, ③-1-2に対応> ・橋面施設は安全性、眺望性、快適性、歩行性に配慮したデザインとする。 ・橋面眺望施設は、防風機能、休憩機能を踏まえ、快適な眺望空間を目指す。	・歩行者の視点からの眺望性を損なわず、足掛かり等を考慮した高さの選定等、安全性の高い高欄・防護柵デザインか ・安全で快適な歩行空間を創出する舗装材料の選定と、ヒューマンスケールを意識した楽しさを感じられるパターンデザインがなされているか。 ・子供連れや車イスの利用者が安心して港の眺望を楽しむ事ができる安全性の高い眺望空間が形成されているか。	・模型、VR(ヴァーチャルリアリティCG)を作成し、多様な位置からの見え掛り及び視界状況を検討し、予測する。 ・景観審議委員などのデザインの専門家をまじえ、評価する
	■若洲海浜公園に対する環境対策<②-1-3に対応> ・公園利用者への圧迫感を軽減させるよう、フルボックス形状の桁形式を用いる。 ・新設道路による騒音環境の改善をすべく、関係者と調整を踏まえながら環境改善対策を行う。	・公園利用者に対する圧迫感が軽減されたか。 ・騒音環境に対し適切な対策がなされたか。	・模型、VR(ヴァーチャルリアリティCG)を作成し、多様な位置からの見え掛り及び視界状況を検討・予測すると共に、騒音対策予測を行う。 ・関係者との調整を踏まえつつ、景観審議委員などのデザインの専門家をまじえ、評価する
	■照明施設<②-2-1, ②-3に対応> ・道路照明及び景観照明(ライトアップ)を一体的に捉え、構造特性に適合し、新しい景観資源として効果の高い、照明環境・夜間景観状況を創出する。	・道路照明としての機能担保と景観照明の演出性、相互の表現性が適切に融和しているか ・航行船舶や航空機への障害の回避が確保されているか。 ・照明による演出プログラムの表現性と効果が適切か	・照明模型、CGを作成し、多様な位置からの見え掛り及び視界状況を検討し、予測する。 (ただし、予測に一定の限界があると考えられるため、実際の施工現場においてフォローする。)
	■色彩景観<②-1-1に対応> ・周辺の色彩環境を考慮し、本橋の構造特性に適合し、新しい景観資源として効果の高い色彩景観を創出する。 ・夜間における演出照明効果とのバランスを考慮するものとする	・色彩による構造特性の表現化(ゲート性、シンボル性)が補完されているか。 ・橋梁のみならず周辺色彩環境の活性化によって魅力的な景観が形成されるか。	・模型、VR(ヴァーチャルリアリティCG)を作成し、多様な位置からの見え掛り及び視界状況を検討し、予測する。 ・景観審議委員などのデザインの専門家をまじえ、評価する。また、施工段階において、カラーサンプルで実際の見え方を確認しながら補正を行う。

<p>③-3: コスト削減、費用対効果を考慮した整備の考え方</p>	<p>・華美な装飾を排し、機能に即した、構造躯体による素直な表現を重視する。 ・維持管理性を考慮した検討を前提とする。</p>	<p>・コスト削減を図ろうとする結果、上記で検討した景観整備やデザインに著しい不合理を生じないか</p>	<p>(上記一連の検討成果を用いる)</p>	<p>・既往の類似事例や関係者、景観審議委員などのデザインの専門家の意見を参考に、評価する。</p>
<p>③-4: その他</p>				

①当該事業における景観形成の目標像

・周辺地域における歴史的景観との調和に配慮しつつ、既存庁舎と一体的に機能する増築部を伴った気象台

②対象となる施設や空間とこれを取り巻く周辺景観との関係に対する基本的な考え方

②-1： 周辺の景観等への 配慮の考え方	<ul style="list-style-type: none"> 現在の景観を保全しつつ新たな景観を創出するため、既存庁舎の外観と関係性をもった形状、規模、配置とする 周辺景観や住環境へ配慮するため、地域のデザインコンテキスト（既成の条例・要綱等）を踏まえた整備を行う
②-2： 住民等の利用を考慮 した整備の考え方	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが快適に利用できる施設づくりに寄与するため、景観に配慮しつつ、高低差のある前面道路から容易にアクセスできるアプローチを確保する
②-3：その他	<ul style="list-style-type: none"> 周辺景観の改変を最小限にするため、既存庁舎の外観は可能な限り現在の状態を維持する 施設管理者および施設利用者の理解が得られるよう、景観整備と観測機能向上及び執務環境整備のバランスに配慮する 横浜市との連携を図り、敷地内外にわたる総合的な景観形成に努める

③（①と②を達成するための）施設や空間そのものの景観整備の具体的な方針

③（①と②を達成するための）施設や空間そのものの景観整備の具体的な方針		評価の項目・尺度	予測・評価手法
③-1： 施設や空間の 規模・形状・配置等 の設定の考え方 〈遠景、中景〉	■形状 ・既存庁舎に対してスケール感の調和を図り、一体感を感じられるよう配慮する	<ul style="list-style-type: none"> 既存庁舎のSPAN割や軒高等と調和のとれた尺度となっているか 	<ul style="list-style-type: none"> 平面図、立面図、パース、模型による検討を行い、予測する 作成した図面、パース、模型、既往知見、事例等を参照し、評価する
	■規模 ・見尻坂からの通し景を保全するため、増築部のボリュームや高さに考慮する	<ul style="list-style-type: none"> 見尻坂からの通し景が保全されているか 地域のデザインコンテキスト（既成の条例・要綱等）が考慮されているか 	<ul style="list-style-type: none"> パース、模型等による検討を行い、予測する 作成した図面、パース、模型、既往知見、事例等を参照し、評価する
	■配置 ・外国人墓地正門前から市街地や既存庁舎が見通せるような配置計画とする	<ul style="list-style-type: none"> 外国人墓地正門前から市街地や既存庁舎が見通せるか 	<ul style="list-style-type: none"> 平面図、立面図、パース、模型による検討を行い、予測する 作成した図面、パース、模型、既往知見、事例等を参照し、評価する
③-2： 細部設計、材料等 の選定の考え方 〈近景〉	■外観デザイン ・山手地区にふさわしい色彩や形態となるよう、地区の歴史や街並み景観、住環境に配慮する ・華やかな装飾を避け、経年変化に耐えうる持続可能なデザインを目指す	<ul style="list-style-type: none"> 地方公共団体、地域住民等との合意形成が得られているか 地域のデザインコンテキスト（既成の条例・要綱等）が考慮されているか 	<ul style="list-style-type: none"> 現地調査により得られた知見等を踏まえ、パース、模型等により予測する 地方公共団体、地域住民等の意見を重視して評価する
	■材料の選定 ・既存庁舎の表層のみの擬似的表現などは避けつつ、調和のとれた外観となるよう配慮する ・経年変化に伴う材料の自然な変化やエイジング、オリジナルの保存等に配慮する	<ul style="list-style-type: none"> 既存庁舎及び周辺の建物との調和が図られているか 使用されている材料は耐用性等が考慮されているか 維持管理のしやすい材料を選定しているか 	<ul style="list-style-type: none"> 素材の実物サンプルや整備事例の参照、及びパース等により予測する 選定した材料の修繕、補修のサイクル等を技術資料を参照し、評価する 作成した図面、パース、模型、既往知見、事例等を参照し、評価する
③-3： 施設に付随する 工作物等の整備 の考え方	■付属施設等の形状 ・擁壁については、街並みとの連続性を考慮しつつ、安全性を確保するよう努める ・地上や屋上に工作物を設ける場合は、雑然とした印象を与えないよう配慮する	<ul style="list-style-type: none"> 街並みとの連続性が考慮されているか 利便性や安全性について考慮されているか 目立たない位置に設けているか、目立たない工夫を施しているか 	<ul style="list-style-type: none"> 平面図、簡易模型等により、配置検討を行い予測する 作成した図面、パース、模型、既往知見、事例等を参照し、評価する
	■緑化 ・施設周辺の緑との連続性を考え、敷地内緑化に努めるとともに、生物季節観測用標準木等については、移植等も含めてできるだけ保全する	<ul style="list-style-type: none"> 地域のデザインコンテキスト（既成の条例・要綱等）が考慮されているか 現状の樹姿樹形は保全されているか 	<ul style="list-style-type: none"> 平面図、簡易模型等により予測する 作成した図面、パース、模型、既往知見、事例等を参照し、評価する
	■外構 ・見尻坂からの通し景を保全するため、前面道路沿いのブラフ積み擁壁については、できるだけ保全する ・現状の改変を最小限にしつつ施設にアクセスしやすいアプローチ部分を目指す	<ul style="list-style-type: none"> 外国人墓地との関係性が考慮されているか 見尻坂からの通し景が保全されているか だれもが使いやすいアプローチとなっているか 	<ul style="list-style-type: none"> 現地調査により得られた知見等を踏まえ、パース、模型等により予測する 地方公共団体、地域住民等の意見を重視して評価する
③-4： コスト削減、費用対 効果を考慮した整 備の考え方	<ul style="list-style-type: none"> 可能な限り汎用性のある材料等を活用するとともに、標準的な構法を用いることを基本とする 	<ul style="list-style-type: none"> コスト削減を図ろうとする結果、上記で検討した景観整備やデザインに著しい不合理を生じないか 	<ul style="list-style-type: none"> （上記一連の検討成果を用いる） 作成した図面、パース、既往事例等を参考に評価する

注）本景観整備方針（案）は、これまで検討してきたものを取りまとめたものであり、今後景観アドバイザーなど、学識経験者の助言、時間の経過に伴う周辺情勢の変化を踏まえ、必要に応じて見直すことがある。

別表 景観整備方針

事業名： 富山新港 臨港道路東西線

地方整備局名：北陸地方整備局

①当該事業における景観形成の目標像

伏木富山港の古き良き伝統を踏まえ、21世紀の環日本海地域の新たな象徴、交流と安らぎの場を創出する橋梁デザインとする

②対象となる施設や空間とこれを取り巻く周辺景観との関係に対する基本的な考え方

②-1: 周辺の景観等への配慮の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・伏木富山港の伝統的な帆船を想起こす形態により、21世紀の新たな象徴の創出を図る。 ・環日本海地域等の国内外へのゲートウェイとしての、ゲート性を確保した橋梁デザインとする。 ・多様な周辺景観と調和するシンプルでまとまりのある橋梁デザインとする。 ・地域の景観資源と融和し、新たな観光資源の創出が可能な橋梁デザインとする。
②-2: 住民等の利用を考慮した整備の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の将来土地利用を考慮したアプローチ橋のデザインとする。 ・誰もが利用しやすく、臨港交通体系の強化及び地区を有機的に結ぶ歩道整備を図る。
②-3:その他	

③(①と②を達成するための)施設や空間そのものの景観整備の具体的な方針		評価の項目・尺度	予測・評価手法
③-1: 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方	主要な眺望点からの眺望を大きく損なわないよう、事業を行う位置や建造物の形態等に配慮する。 ・山、海、川等の自然や田園、町並み等の眺望を楽しむことができる場を設けるよう工夫する。 ・開放的な空間となるように橋脚スパンを配置する。 ■時間 ■水と緑 ・水と緑を配した空間を配するなど、住民や利用者に圧迫感を与えないよう配慮する。	<ul style="list-style-type: none"> ・立山連峰、能登半島との調和性 ・自転車、歩行者からの眺望性 ・エレベーター踊り場からの眺望性 ・自動車同乗者の眺望性 ・海王丸パークとの調和 } コンセプトの設定	委員会による評価 ワークショップ等住民の意見聴取
③-2: 細部設計、材料等選定の考え方	■色彩 ・高い彩度を避けるほか、背景となる町並みや自然等と色相や色調をそろえるなど、周辺の景観に調和するよう工夫する。 ・建造物の一部等に強調色を使用する場合は、その色彩や使用範囲、使用部位等の構成が建造物全体として調和し、周辺の景観とも調和するよう工夫する。 ■素材 ・耐久性があり、汚れにくいなど、維持管理が容易で経年による景観上の質の低下が少ない素材を使用するよう配慮する。 ・地域の優れた景観を特徴づける自然素材や伝統的素材等がある地域では、これらを景観づくりに生かすよう工夫する。 ・自然が豊かな地域や閑静な住宅地、歴史的町並みの中では、反射性が高いなど、周辺から際立って見える素材の使用を避けるよう配慮する。	<ul style="list-style-type: none"> ・町並みとの調和性 ・外壁(コンクリート、鋼材)の塗装色 <ul style="list-style-type: none"> ・ポリカーボネイト板透過性 ・パンチングパネル透過性 ・歩行者の体感温度変化 	CG、イメージパース、模型、実物大模型により仮想構築し、車道、歩道、外部景観等、様々な視点からの見え方を予測する。 風洞実験により、流れの検証を行う。 温度シミュレーションを行い、自歩道内の体感温度を予測する。 風シミュレーションを行い、自歩道内の風速分布を予測する
③-3: コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方	コストを抑えた橋種(複合斜長橋)の採用、最適コストとなるアプローチ径間長の採用	<ul style="list-style-type: none"> ・主橋梁部 ・アプローチ部 ・土工部 } 設計費用の積み上げ	詳細設計結果による試算
③-4:その他	■工事中の配慮 ・長期にわたる事業においては、工事現場周辺において圧迫感や繁雑さを感じさせないよう工夫する。 ■維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ・居住区との調和 	見学会等住民の意見聴取

別表 景観整備方針

事業名：大阪港北港南～南港地区道路(トンネル)換気所 地方整備局名：近畿地方整備局

①当該事業における景観形成の目標像	
周辺環境と調和を図ると共に、港湾全体の景観に配慮した空間の創出	

②対象となる施設や空間とこれを取り巻く周辺景観との関係に対する基本的な考え方	
②-1: 周辺の景観等への配慮の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・水辺に映えるように清潔感があり、親しみやすく、空の青さに溶け込む工夫 ・周辺緑地と馴染むための緑を映し出す工夫 ・近隣する『なにわの海の時空館』とのデザインボリューム的バランスの確保
②-2: 住民等の利用を考慮した整備の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺緑地利用者に馴染む外構植栽計画及び外壁材の工夫 ・WTC等からの眺望に対して屋上緑化を取り入れる等、周辺環境に溶け込む工夫

③ (①と②を達成するための) 施設や空間そのものの景観整備の具体的な方針	評価の項目・尺度	予測・評価手法	
③-1: 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方	■形状<②-1に対応> ・市が計画する緑地ゾーン及び野鳥園と一体的且つ、つながりのある空間を形成するため、換気所そのものの存在をアピールするような形状とはしない ・隣接する『なにわの海の時空館』の形状(ドーム型)や色彩を考慮し、船舶や遠景眺望に対し、バランスを図るため、曲線面をデザインに用いる ・換気所、煙突部の形状に配慮する。特にボリューム感、圧迫感を抑えるため、2本にすると共に円形とする	<ul style="list-style-type: none"> ・隣接緑地、海岸線、背後地である野鳥園との一体感 ・『なにわの海の時空館』、WTC、ATC、倉庫(住友倉庫)との高さ、幅、奥行き、関係性、類似性、バランス ・コスモスクエア駅からの見え方、『なにわの海の時空館』との高さ、奥行き、バランス 	・計画平面図、立面図、断面図を基に海側とコスモスクエア駅からのCGパースを作成し、一体感、バランス等を検討した 予測結果を用いて、アドバイザーの意見を基に評価する
	■形状<②-2に対応> ・いろいろな方面からの見え方に配慮を行うため、港湾内・外の多方面からの眺望に対して調整を行い、全方向のデザインに対して整合性を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・建物を斜めから見た場合のバランス、素材感 ・各立面が演出するリズム感が同一か 	
③-2: 細部設計、材料等選定の考え方	■仕上材<②-1、2に対応> ・清潔感や、空の青さに溶け込む工夫を行うため、建物上層部や煙突部の仕上材選定に配慮する ・近接する『なにわの海の時空館』との材質的な整合を図るために、部分的に同一的な素材を用いると共に、外壁材においては無機質な材料を選定する ・換気所そのものの存在をアピールする仕上材の選択は行わず、周辺に馴染んだ、換気所をイメージしないデザイン及び仕上計画を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・適用する仕上材の反射状態、透明感 ・適用する外壁材の無機質感 ・適用する外壁材の周辺緑地との馴染み具合 	・仕上材の実物サンプルを用いて比較検討し、予測する ・整備事例を写真等を参照し、予測する 予測結果を用いて、仕上材の選定を評価する
	■緑化<②-1、2に対応> ・緑地ゾーン及び野鳥園との一体化を図るため、建物周辺に緑地帯を設ける。さらに、WTCからの景観に配慮し、屋上緑化を設ける	<ul style="list-style-type: none"> ・建物緑化後の視点上からのイメージ、好感度 ・WTCからの換気所の見え方 	
③-3: コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方	・外壁タイルについては一般汎用品を使用すると共に、自然石においても安価な産地材を採用し、コストの圧縮に配慮する ・塩害に強く、耐久性に優れた材料を選択すると共に、メンテナンスが容易な設計を行う。以上を長期間の維持管理も含めたライフサイクルコストの観点からコスト縮減を評価する	・ライフサイクルを考慮に含めたコスト縮減を図るものとするが、コスト縮減のために景観性を大きく損なわないよう留意する	・仕上材のサンプルや、材料比較表により予測する ・予測結果を基に、設計者が評価する ・必要に応じ、アドバイザーの意見を聴取すると共に、結果内容を確認する
③-4: その他			

景観整備方針

事業名：一般国道9号 松江道路

地方整備局名：中国地方整備局

参考資料 14

①当該事業における景観形成の目標像

宍道湖の豊かな自然と調和し、地域住民・来訪者から長く愛される道路景観整備

②対象となる施設や空間とこれを取り巻く周辺景観との関係に対する基本的な考え方

②-1: 周辺の景観等への配慮の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふるさと島根の景観づくり条例(宍道湖景観形成地域景観形成基本計画)」で示された、各施設整備の考え方、基準、規制等の徹底した景観整備とし、松江道路として統一性のある道路景観を創造する。(②-1-1) ・新たな大規模構造物(橋梁等)や道路交通による、風景の変質、生活環境に対する影響等にきめ細かく配慮した整備とする。(②-1-2) ・玉湯町の都市計画と整合を図り、新設区間による交通機能強化や、周辺用地等を利用し、発展的まちづくりに寄与すること。(②-1-3) ・シークエンス景観の変化が大きい橋梁上や、湖面に面した区間の眺望を活かす整備とする。(②-1-4)
②-2: 住民や来訪者等の利用を考慮した整備の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・沿道住民の日常生活シーンに対し、スケール感が適正で、違和感を及ぼさない道路構造物・付属施設等の景観整備とする。(②-2-1) ・環境施設帯、公園用地、歩道、交差点等を利用し、湯町まちづくり事業と連携し地域イメージ・アメニティー性を高めるとともに観光客へのもてなし空間を創出する。(②-2-2)
②-3:その他	

③(①と②を達成するための)施設や空間そのものの景観整備の具体的な方針	評価の項目・尺度	予測・評価手法	
③-1: 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ■道路付属物の配置<②-1-1、②-1-4に対応> ・眺望を妨げないように透過性を高め、連続性、統一性を確保し、すっきりとした形状とする。(③-1-1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活環境に圧迫感を与えていないか。 ・連続性、統一性が図られ、煩雑な印象が少ないか。 ・形状的に違和感が少なく、周辺色彩と調和しているか。 ・眺望性を阻害しないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フォトモンタージュ(静止画CG)を作成し、見え方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ワーキングにより、作成したフォトモンタージュを評価する。
	<ul style="list-style-type: none"> ■道路構造部の形状<②-1-2に対応> ・橋梁全体のまとまりに配慮し、桁と橋脚の一体感のある形式とし、圧迫感の与えない、スレンダーな形状とする。また、桁裏のすっきりとした形状にする。(③-1-2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・圧迫感が軽減されているか。 ・一体感のある形状となっているか。 ・統一的な印象が得られているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フォトモンタージュ(静止画CG)を作成し、見え方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ワーキングにより、作成したフォトモンタージュを評価する。
	<ul style="list-style-type: none"> ■環境施設帯の形状<②-2-2に対応> ・湯町まちづくり計画と協調し、地域性を考慮し、地域の要望を踏まえた樹種の選定・配置とする。(③-1-3) 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体として快適性を高める植栽となっているか。 ・地域の特徴を活かした樹種で、地域性が創出されているか。 ・湯町まちづくり事業と連携が図られているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平面図、断面図、フォトモンタージュ(静止画CG)により配置計画を行い、予測する。 <ul style="list-style-type: none"> ・周辺地域の写真等を比較参考として評価する。
③-2: 細部設計、材料等選定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ■道路付属物の形状<②-2-1に対応> ・良好な眺望が得られるよう、道路付属物(防護柵、照明、標識等)は、部材数が少なく、シンプルな形状構成となっているものを採用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路付属物が、道路内部景観から得られる眺望をどれだけ阻害しているかを尺度として、眺望の善し悪しを評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フォトモンタージュ(静止画CG)を作成し、見え方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ワーキングにより、作成したフォトモンタージュを評価する。
	<ul style="list-style-type: none"> ■道路付属物の色彩<②-2-1に対応> ・道路内部景観に煩雑感がなく、走行しやすい空間となるよう、また、周辺の自然色彩に対して違和感が少なく、融和的した色彩とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・四季や天候の変化も含め、周辺の自然景観に対し、煩雑感や浮き上がり感がないか。 ・整備対象との色彩と周辺色彩との明度比や彩度比等を尺度として、違和感の有無を評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フォトモンタージュ(静止画CG)作成し、晴天・曇天の別に色彩を変化させて見え方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ワーキングにより、作成したフォトモンタージュを評価する。
	<ul style="list-style-type: none"> ■環境施設帯の植栽選定<②-1-3、②-2-2に対応> ・人工的で圧迫感のある印象を緩和する植栽の配置、道路空間に沿道生活空間のバッファーとしての役割を持たせる。 ・周辺地域や玉造温泉入り口としての地域イメージが向上する植栽配置・植栽選定とする。 ・玉湯川などの周辺緑地と連続性のある植栽配置・植栽選定とする。 ・地域住民に親しまれ、維持管理参加の可能な植栽とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・沿道生活空間に馴染んでいるか。 ・沿道空間のバッファーとして整備されているか。 ・地域イメージ向上のシンボリックな植栽となっているか。 ・玉湯川緑道と連続性のある景観であるか。 ・親しみやすい維持管理の容易な植栽であるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に周辺の土地を調査した結果により確認された樹種を基に、既往事例との比較により将来の生育状況等を予測する。 ・平面図により周辺緑地との連携性・協調性及びバッファー機能を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・樹種選定は、維持管理に協力頂く地域住民等の意見を聴き、ワーキングにより評価する。
	<ul style="list-style-type: none"> ■舗装舗装の選定<②-1-2、②-1-3、②-2-2に対応> ・湖畔周辺の自然環境に馴染む、歩道のバリアフリー化に配慮した舗装材とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然で落ち着きのある素材感が感じられる舗装材であるか。 ・平滑で、滑りにくく、水はけのよい透水性舗装であるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フォトモンタージュ(静止画CG)を作成し、見え方を確認する。 ・既往事例等により、予測する。 <ul style="list-style-type: none"> ・舗装材の選定は、地域住民等の意見を重視して検討会により評価する。
<ul style="list-style-type: none"> ■地下道の形状<②-2-1、②-2-2に対応> ・周辺住宅地の景観に馴染む屋根等の形状とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地下道の安心感を確保し、落ち着いて違和感のない形状・色彩であるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存事例等により予測する。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の要望・意見を重視して評価する。 	
③-3: コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り現場にある材料等を活用し、現場以外から材料を持ち込まないことを基本とする。 ・施工性が良く、補修が容易でライフサイクルコストの低い歩道舗装を採用する。 ・維持管理費の低い植栽を選定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コスト縮減を図ろうとする結果、上記で検討した景観整備やデザインに著しい不合理が生じていないか。 	<ul style="list-style-type: none"> (上記一連の検討成果を用いる) <ul style="list-style-type: none"> ・既往の類似事例や関係者、アドバイザー等の意見を参考に評価する。
③-4:その他			

景観整備方針

事業名：呉港阿賀地区道路(1号線)整備事業 地方整備局名：中国地方整備局

①当該事業における景観形成の目標像
・背景となる穏やかな瀬戸内海、遠くに望む島々等の景観に伸びやかに調和し、港の中心をなす落ち着いた存在感のある橋として機能と品格を兼ね備えた橋梁及び道路景観を創造する。

②対象となる施設や空間とこれを取り巻く周辺景観との関係に対する基本的な考え方	
②-1： 周辺の景観等への配慮の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・水平方向に伸びる構造形態を活かし、シンプルで伸びやかな印象とつながりのある空間構成とする。(②-1-1) ・航路を横断するため、港のゲートの印象を感じられる橋梁形態とし、地域のシンボルとしての印象に配慮する。(②-1-2) ・起点側の一部に、稚貝の養殖場に近いため潮流を阻害しないよう栈橋構造を採用。橋梁構造部との違いを考慮しつつ連続性のある景観を確保するよう配慮する。(②-1-3)
②-2： 住民等の利用を考慮した整備の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・人々が利用しやすい橋梁空間を創出するため、港を見渡せる新しい視点場を生かす眺望・休憩機能を持った歩道空間の整備を行い、安心感のある、親しみのもてる空間を目指す。(②-2-1) ・市街地に近い起点側橋詰め部に橋詰め広場を設け、橋や港を見ることが出来る新たな視点場を提供する。(②-2-2)
②-3：その他	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の新しいシンボル・景観資源として整備を進める。

③(①と②を達成するための)施設や空間そのものの景観整備の具体的な方針	評価の項目・尺度	予測・評価手法
③-1： 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ■橋梁形態<②-1-1, -2に対応> <ul style="list-style-type: none"> ・比較的低い位置で水平方向へ伸びる橋梁であるため、構造の連続性を重視し、全体の統一を図る。また、航路を横断する中央径間部は、桁高さに脚部と径間中央部で変化を与え、桁下空間に広がりをもたせ、水平性の中に調和するゲートとしての印象に配慮した景観を創出する。(③-1-1) ・波の揚圧力を受ける部分は栈橋構造とし、橋梁区間とは異なる形態となるが、異種構造がスムーズに接続するよう歩道部の擦り付けや外側面の連続などに配慮する。 ■橋脚形態<②-1-1, -2, -3に対応> <ul style="list-style-type: none"> ・橋梁区間は地盤条件などの違いから構造諸元がそれぞれ異なるが、一体の構造物として形態の連続性を印象付けるため、構造寸法、テクスチャー処理の統一を図る。(③-1-2) ■眺望施設及び橋詰め広場<②-2-1, -2に対応> <ul style="list-style-type: none"> ・港を見渡せる視点場として、中央径間の両側の橋脚上部に、ちょっとたたずむことのできる眺望施設(バルコニー)を設ける。また、起点側護岸部に、橋や港を見ることが出来る新たな視点場として橋詰め広場を設ける。(③-1-3) 	<ul style="list-style-type: none"> ・一連の橋梁としての連続性、一体性が形成されているか。 ・構造的(構造表現の有効性)ゲート性、が適切に表現されているか。 ・周辺環境との適合性が表現されているか。 ・各部の形態特性に応じた形態が相互に連続性、関係性が感じられるか。 ・橋脚群としての統一性が感じられるか。 ・眺望点としての有効性が活用されているか。
③-2： 細部設計、材料等選定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ■構造細部デザイン<③-1-1, -2に対応> <ul style="list-style-type: none"> ・構造細部は、構成要素相互のつながりに違和感のないよう、形態的調和を目指し、一体の連続性を持つ形態とする。 ・中央径間部は、桁の高さを径間中央部で小さく、橋脚部で大きくし、大きな弧を描くシルエットとすることにより、桁下空間の広がりを確保する。 ・橋脚群は、連続性を重視し、経済性に配慮しながら、基本形状の統一を図る。 ■橋面施設<③-1-1, -3に対応> <ul style="list-style-type: none"> ・橋面施設(高欄、防護柵、舗装、道路照明など)は、安全性、快適性、歩行性、維持管理性に配慮したデザインとする。 ・車両防護柵は機能重視の装飾の少ない水平性が強調されたシンプルな形態とする。 ・高欄は水平方向の連続性を活かしたシンプルな形態とする。 ・照明はシンプルな橋梁形態に適合するシンプルな形態の照明とする。 ・舗装材は背景の山並み等の自然な周辺環境との調和が図れる落ち着いたやわらかい印象・色調の舗装材とする。 ・眺望施設は、距離の長い歩行経路の途中休憩スペースとして、サポーターを設け、橋梁のシルエットにあまり影響を与えない、快適な眺望空間を目指す。 ■栈橋構造部<②-1-3, ③-1-2に対応> <ul style="list-style-type: none"> ・橋詰め広場の延長としてとらえ拡幅部を歩行空間として活用する。また、外側面のスラブ端部と横梁端部に一定の奥行き差をつくることでスラブ端部の厚みが揃い、側面景観の印象に連続性を与える。 ■橋詰め広場<②-2-1, ③-1-3に対応> <ul style="list-style-type: none"> ・護岸部を一部張り出す形で新たな眺望点としての橋詰め広場を設ける。護岸天端高さと路面高さの差が大きいことから、陸側視点からの圧迫感の低減を図る。また、橋詰め広場護岸部内側は、人々が集う場として、自然石による壁仕上げとする。 ■色彩景観<②-1-1, -2に対応> <ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸内海特有の海の色に調和し、自然の豊かな周辺の色彩環境なかで、本橋の構造特性に適合し、周辺環境に調和する、親しみの感じられる色彩景観を創出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的イメージが各部で適切に処理されているか。 ・橋脚群としての連続性、視覚イメージ、バランスが確保されているか。 ・歩行者の視点からの眺望性を損なわず、橋梁の全体印象に適合する高欄・防護柵デザインか ・安全で快適な歩行空間を創出する舗装材料か ・橋梁のシルエットに適合し、港の眺望を楽しむ事ができる眺望空間が形成されているか。 ・維持管理に配慮した材料か。 ・橋梁部との連続感があるか。 ・側面景観としての印象に不都合はないか。 ・眺望点としての環境が創出されているか。 ・護岸構造物の圧迫感が解消されているか。 ・色彩による構造特性の表現化が補完されているか。 ・橋梁のみならず周辺色彩環境と併せて魅力的な景観が形成されるか。
③-3： コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・華美な装飾を排し、機能に即したシンプルな形態、構造を採用する。 ・維持管理性を考慮し、構造躯体による素直な表現を重視する。 ・付属物は、耐塩害性の高い、長期間の維持管理を踏まえた素材を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コスト縮減を図ろうとする結果、上記で検討した景観整備やデザインに著しい不合理を生じないか
③-4：その他		<ul style="list-style-type: none"> ・上記一連の検討成果を用い予測する ・景観審議委員などのデザインの専門家の意見や関係者の意見などを参考に、評価する。

別表 景観整備方針の設定

事業名：吉野川改修事業（滝谷川樋門新設） 地方整備局名：四国地方整備局

①当該事業における景観形成の目標像	
地域の特性に配慮し、吉野川上流域の風景と調和し、飽きのこない施設デザインとする。	

②対象となる施設や空間とこれを取り巻く周辺景観との関係に対する基本的な考え方	
②-1： 周辺の景観等への配慮の考え方	・吉野川上流の周辺環境に違和感無く飽きのこない施設とする。
②-2： 住民等の利用を考慮した整備の考え方	・人々が利用しやすい水辺空間を創出するため、堤内から吉野川までのアクセスが可能なように、坂路及び堤外導水路付近の高水敷の整備を行う。
②-3：その他	(特に無し)

③（①と②を達成するための）施設や空間そのものの景観整備の具体的な方針	評価の項目・尺度	予測・評価手法
③-1： 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方	■上屋、操作室の意匠<②-1に対応> ・周辺景観に配慮しながら、飽きのこないデザインとする。	・対岸からの見て違和感はないか。 ・CGパースを用いて検討する。 ・予測結果を用いて設計者が評価する。
	■階段工、堤外導水路工等の形状<②-1に対応> ・周辺環境に適應するため、施設的な目立った環境整備ではなく、シンプルな飽きのこない形状とする。	・樋門施設と違和感のない形状・デザインか。 ・事例写真や、CGパースを用いてイメージを確認する。 ・予測結果を用いて設計者が評価する。
	■高水敷の整備<②-2に対応> ・自然と建築物とを繋ぐ空間として、過剰に構築しないように水際までの景観に配慮する。	・施設の設置場所や周辺高水敷との繋がり、バランスを評価する。 ・周辺写真を用いて予測する。 ・参照結果を基に設計者が評価する。
③-2： 細部設計、材料等選定の考え方	■上屋、操作室の材料選定<②-1に対応> ・メンテナンスフリー、耐久性、を考慮した飽きのこない素材を採用する。	・材料の耐久性等の諸機能や、質感を評価する。 ・実物サンプルやカタログの参照により検討する。 ・参照結果を基に設計者が評価する。
	■門柱、翼壁等の細部デザイン<②-1に対応> ・重厚にならないシンプルな飽きのこないとれたデザインとする。	・飽きのこない樋門施設となっているか。 ・CGパースを用いてイメージを確認する。 ・予測結果を用いて設計者が評価する。
	■階段工、堤外導水路工等の材料選定<②-1に対応> ・飽きのこない、耐久性のある材料等を採用する。	・施設全体の繋がり違和感はないか、飽きのこない素材か。 ・事例写真やカタログの参照により検討する。 ・参照結果を基に設計者が評価する。
③-3： コスト削減、費用対効果を考慮した整備の考え方	■景観整備による追加費用の検証 ・イニシャルコストだけではなくライフサイクルまでの費用を検討し、適切な景観整備とする。 ■コスト削減の検討 ・耐久性のある材料を採用することでランニングコストに配慮し、無理のないデザインとすることでコストを削減する。	・ライフサイクルを考慮したコスト削減を図ろうとする結果、著しく景観性を損なうものとなっているか。 ・景観に配慮しすぎコストが過大となりすぎていないか。 ・上記一連の検討成果を用いる。 ・予測結果を基に設計者が評価する。 ・又、必要に応じてアドバイザーの意見を参考に評価する。
③-4：その他		

別表 景観整備方針

事業名：松山港海岸（和気地区）整備事業

地方整備局名：四国地方整備局

①当該事業における景観形成の目標像	
現在残っている海浜の自然を生かし環境を保全することを基本とし、主に地域の人々の利用を考慮した「よそ行きではない、地域住民の前庭的な空間」としての海岸（を整備する）	

②対象となる施設や空間とこれを取り巻く周辺景観との関係に対する基本的な考え方	
②-1： 周辺の景観等への配慮の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・現在も残っている砂浜や背後松林などの自然景観との連続性を重視した整備を行う。(②-1-1) ・海と陸との視覚的連続性を重視した整備を行う。(②-1-2)
②-2： 住民等の利用を考慮した整備の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・通年的に利用されている、地域住民の散策路としての利用に配慮した整備。(②-2-1)。 ・一方で、特に夏期に盛んとなるマリンスポーツ・レジャーに配慮した整備。(②-2-2) ・上記が二つの利用形態が混在することに配慮した整備。(②-2-3)
②-3： その他	(特になし)

③ (①と②を達成するための) 施設や空間そのものの景観整備の具体的な方針	評価の項目・尺度	予測・評価手法
③-1： 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ■配置<②-2-1、②-2-3に対応> <ul style="list-style-type: none"> ・堤防は、人の溜まり部箇所と散策通路部等、空間的なメリハリをつける。(③-1-1) ・視線が通る場所（アクセス道）には、海方向へのヴィスタ景観を通す。(③-1-2) ■規模<②-1-1、②-1-2に対応> <ul style="list-style-type: none"> ・景観の主体はあくまで海岸の自然として捉え、構造物は添景としてできるだけ主張しないように努める(③-1-3) ・砂浜の幅は、陸と海が疎遠になりすぎないとともに、かつ陸と海の接点として緩衝帯となるよう適度な幅を確保出来るような規模とする。(③-1-4) ・砂浜と堤防天端高の高低は、圧迫感を感じさせない関係性を確保。(③-1-5) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「景観検討委員会」での検討結果（CGによる検討）と現地の比較により検証する。 ・開放後の利用者アンケートや「景観検討委員会メンバー」での現地検証により評価する。
③-2： 細部設計、材料等選定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ■横断構成（堤防・養浜・突堤）等<②-1-1、②-1-2に対応> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺景観と調和した飛沫防止帯としての植栽。(③-2-1) ・堤防は、砂浜の勾配に対して急にならないよう緩やかにすりつくように構成。(③-2-2) ■材料<②-1-1に対応> <ul style="list-style-type: none"> ・養浜砂は色合いや質感を考慮して、現状の砂浜に近いものを選定。(③-2-3) ■細部デザイン<②-1-1、②-2-1、②-2-3に対応> <ul style="list-style-type: none"> ・堤防表面は視認性を確保するとともに照り返しを考慮した表面仕上げとする。(③-2-4) ・堤防プロムナードの舗装は自然素材を使用することを基本とする。(③-2-5) ・海浜各部の色彩の設定にあたっては、色彩のコントラスト（強弱）によってバランスを図る。(③-2-6) ・付属工作物は存在を主張しないシンプルな物を使用する。(③-2-7) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「景観検討委員会」での検討結果（CGによる検討）と現地の比較により検証する。 ・開放後の利用者アンケートや「景観検討委員会メンバー」での現地検証により評価する。
③-3： コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の整備にあたっては、維持管理を含めたコスト等を考慮する。(③-3-1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「景観検討委員会」での検討結果（CGによる検討）と現地の比較により検証する。 ・開放後の利用者アンケートや「景観検討委員会メンバー」での現地検証により評価する。
③-4： その他		